

4. 口腔粘膜炎について・原因や症状など

口の周辺に放射線が当たると、当たった範囲の口腔粘膜に障害が起こります。

<原因>

粘膜の細胞は欠落と再生を繰り返しています。放射線は細胞のDNAにダメージを与えて、細胞が再生する能力を低下させます。この影響で口腔粘膜の細胞も再生能力が低下し、欠落のあとに新しい細胞が補充できない状態になります。従って、欠落状態が修復できないので、粘膜が欠損して潰瘍(かいよう)が形成されてしまいます。

《放射線治療の影響による口腔粘膜炎》

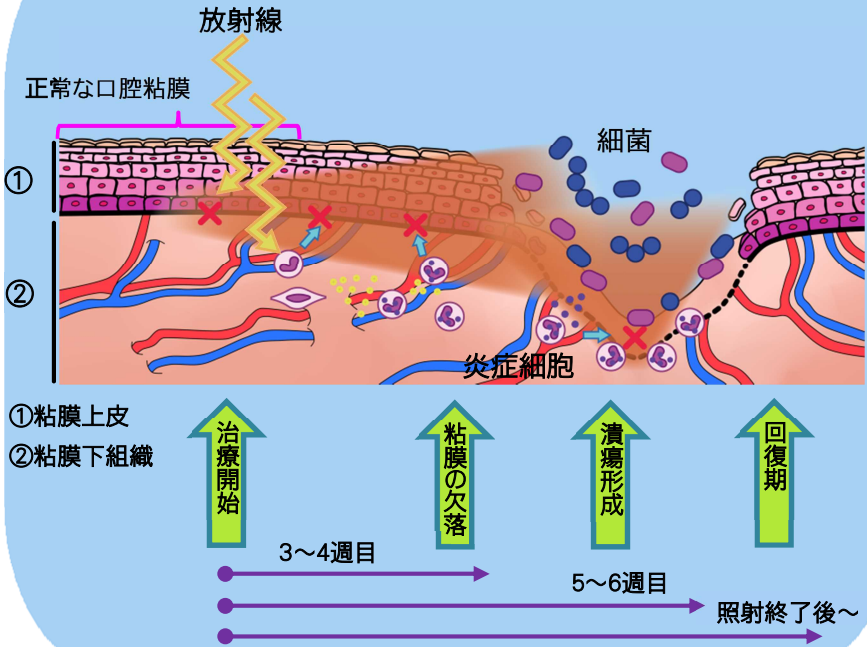


<症状と経過>

放射線治療を行った場合の一般的な口腔粘膜炎の始まりから治るまでの経過を説明します。放射線治療の場合は、少しの量の放射線(1回約2 Gy^{*}を週5回)を6~7週間かけて照射するため、2~3ヵ月間口腔粘膜炎が持続することになります。治療が終了すれば、約1ヵ月で元の状態に戻りますが、抗がん剤を併用した場合は、より回復に時間がかかる場合もあります。

(*) 放射線の線量の単位をGy (グレイ) と言います。通常、「1回に2 Gyの放射線を1日1回、7週間照射します。」のように使われます。

《口腔粘膜炎の始まりから治るまで(イメージ図)》



治療開始 1日目	口の中に何も変化はありません。
3~4週目 (照射量20 Gy~)	粘膜が熱を持ったように感じ、赤みが強くなり、一部の粘膜がはがれ潰瘍(かいよう)を作ります。
5~6週目 (照射量40 Gy~)	口腔粘膜炎が最も強くなった状態が続きます。
照射終了後～	粘膜が再生してもとの粘膜の状態に戻るまで、約1~2ヵ月かかります。